

令和5年度 第1回 静岡市市民自治推進審議会 会議録

日時 令和6年1月12日（金） 14時00分から15時30分まで

会場 静岡市役所 静岡庁舎 本館3階 第3委員会室

出席者 【委員】

小泉委員（会長）、土屋委員（副会長）、天野委員、久保田委員、
阪口委員、須藤委員、田口委員、沼田委員、松平委員、山崎委員
（会長、副会長、以下五十音順）

【静岡市】

企画課 広域行政担当課長、広域行政係長、主査、主任主事
市民自治推進課 市民協働促進係長、主任主事

議事

1 あいさつ

2 委員自己紹介

3 議題等

（1）議題 令和4年度 市民参画手続きの実施状況等について

【市民自治推進課】

～ 資料1（1-1～1-4、別紙1、2）に基づき、令和4年度市民参画手
続の実施状況等について説明 ～

【小泉会長】

ありがとうございました。今ご説明いただいたことについて、何かご質問やご
意見等あればご発言いただきますようお願いいたします。

【田口委員】

説明の中であったように、パブリックコメントを集めることについて、今後さ
まざまな策を講じていくと、集まる意見の数が増えていくと思いますが、その処
理をどのようにしているのかを教えてくださいましたらと思います。

【市民自治推進課】

いただいた意見については、その概要と市の考え方を公表することが条例で定
められていますので、各部署で処理を行い、公開しています。

ホームページにも掲載していますが、意見募集するときは積極的に発信して、結果を公表したことについてはあまり発信できていないということが課題としてあります。

先ほど説明したLINE等を活用し、結果の公表についても積極的に発信していきたいと考えています。

【田口委員】

いろんな部署に対する意見が増えていくと思うので、それに回答することだけに各担当部署の時間を割かれないように、最新の技術なども活用し効率的に民意をすくい上げる工夫を取り入れて対応していただけたらと思いました。

【久保田委員】

パブリックコメントの意見数が増加していますが、どの年代層が伸びているのかなど、内訳はわかりますでしょうか。

内訳が分かると、どんな年代がどの分野に興味を持って、関心が広がっているのかが分かると思うのですがどうでしょうか。

【市民自治推進課】

正確にまとめたものではないのですが、令和4年度実績からざっと拾うと、20代～40代が大体半分を占めています。

内訳は20代が19%、30代が16%、40代が17%となっていて、一般的なパブコメのイメージは、選挙の投票率もそうですけれども、50代以上の方の意見が多いのかな、というものがありますが、結果を見ると、割とバランスが取れている状況であります。

背景としては、意見を募集するときに、各部署がなるべく広い年代の意見を聞くよう意識して動いていただいています。

例えば、職員が大学で出前講座を行った際に説明し、20代の学生から意見があれば、その場で受け付けたり、関係する企業や審議会の方々にお知り合いにパブコメについて声をかけてもらったり、様々な取組をしておりますので、そういった成果が表れていると思っています。

【阪口委員】

LINEを活用した取組が非常に良いなと思います。アクセス方法もすごくわかりやすくなったので、今後じわじわと広がっていき、意見の数が増えていきそうだと感じました。

数字の話で恐縮ですが、令和4年度は、パブコメの実施件数と、それに対する意見数、提出者数が大きく伸びています。

しかし、パブコメの提出者数をパブコメの実施件数で割ると、令和4年度が一番小さい数字になる。つまり、パブコメ1件あたりの意見者数が一番少なかった

のは令和4年度ということですが。

パブコメの件数が多いわりに意見者数が少ないのは、件数が多すぎて分散してしまったとか、何か理由があるのでしょうか。

【市民自治推進課】

市民の関心が高い案件については、議論が活発であり、意見も多く寄せられます。一方で、マイナンバー関係など、手続き上公表しなくてはならないものがあり、意見数には案件によって非常に差があります。

例えば令和3年度の文化会館の建て替え関係のパブコメは、2千件の意見が集まっていました。

令和4年度のパブコメ1件あたりの意見者数が少なかったというのは、おそらく、そういった“案件毎の関心度”と案件数が影響しているのではないかと思いますが、意見数や案件数をもって比較分析することが難しい部分もございます。

【須藤委員】

二点あるのですが、まず一点目。パブリックコメントでいただいた意見に対して、意見一つ一つにというのはなかなか難しいかもしれませんが、今のところ、意見が事業に反映されたかどうかという指標がないので、そういった指標が作れないのでしょうか。

私の周りでも「パブリックコメントを書いてもね…」という感想を持っている人がいるのが現状で、集められた意見がどれだけ反映されているのかの指標をしっかりと提示していくことで、より多くの建設的な意見が集まると思います。

当然すべての意見を反映させる必要はありませんが、“意見が反映されている”という事実が見えることが大切ですので、今後検討していただけたらと思います。

二点目ですが、審議会への公聴の人数がゼロということは課題だと思います。やっぱりゼロという数字はいいかどうかという評価をしなければならないと思います。

先程お話があったとおり、興味関心が高い、施設管理の関係等には来てくださいますけれども、市民の方が審議会に参加していただくことへのハードルが実はあるのではないかと、ということを検討していただきたい、というのが感想です。

【松平委員】

私は福祉の人間なので気になるところなのですが、先ほどパブリックコメントの意見者属性のうち、20代～40代が半分を占めているというお話がありましたが、10代、10代以下はどうしているのでしょうか。

そういった方々も静岡市を創る大事な市民であり、静岡市は若い世代の人口流出という問題もありますので、子どもたちの意見も反映させることも重要だと思います。

また、社会的包摂を考えた時に、精神障害者や知的障害者、生活に困窮している方々は、市の施策と密接に関わっており、意見を聞くべき人たちだと思いますが、そのような方々はLINEから意見を言うことが難しい場合が多いので、どのようにしてその意見を聞くのか、ということを考えていただくと良いと思います。同時に、70代以上の方々の意見をどう聞くかということも考えていかなければいけないと思います。

【天野委員】

過去の審議会で議論した内容・課題とかを取り上げていただいて、それに対しての解決策を模索し、実施していただいていることは素晴らしいなと思いましたので、ぜひ引き続き取り組んでいただけたらと思います。

もう一つ、松平委員がおっしゃったとおりなんですけど、サイレントマジョリティーというか、声を上げられない方々の声をどう吸い上げるかが重要だと思います。

NPOやっている立場からすると、声を上げられない方々がいらっしゃるから我々が存在しているので、そういった方々の近いところで支援している立場だからこそ分かることや、直接じゃなくても代弁できることもあると思います。

今回説明されていた好事例の中で、環境教育行動計画の中で、市民活動団体さん等へ資料を送付していただいているというお話があったので、理想は各課の中で、パートナーになるNPOとか、市民活動団体のリストみたいなものがあるって、年次更新していくと。そうした中で、一緒にご意見を聞いて蓄積していく、というアクションがこれからできてくると、意見を聞く幅が広がってくるかなと思います。こういったところに引き続き取り組んで改善していただければ、という意見です。

【土屋委員】

資料の別紙2に並んでいるパブリックコメントの一覧を見ると、市民参画手続きを取る施策というのは、各課から上がってきたものだと思いますが、各課によってかなりばらつきがあるような気がするんですが、何か理由があるのでしょうか。

【市民自治推進課】

市民参画手続きの対象となる政策というのは、条例上で規定をしておりますので、市民の皆様の権利を制限する条例の制定や、各行政分野の基本的な方向性を定める計画や条例、あるいは、大規模な公の施設の設置に係る計画の策定などについては、必ず実施しなくてはならないことになっております。

また、条例で規定されているもの以外でも、積極的に市民の皆様にご意見を聴取をしていくべきだと思っています。

【山崎委員】

この前、静大の学生に講演する機会がありまして、そのときに“趣味と興味”ってという言葉を使ったら、「意外とこれってハードル高いんだよ」と言われたんです。

趣味・興味がある人は情報を自分で取りに行くので、パブコメもする人もいるんですけど、趣味・興味のもう一つ次の段階の人たちが、サイレントマジョリティーの人たちだったりとか、10代の人たちだったりします。

色々な種類の情報発信方法があると思いますが、趣味・興味の次の段階の人に向けてどのような表現で発信すると反応してもらえるのか、委員の方々にいろいろ聞いていただけたらと思います。

10代の人たちにも、確実に興味持っている方はいるので、例えば、パブコメを学校のカリキュラムの中に取り入れ、そこで意見を書いてもらえると、趣味・興味の次の段階の人たちの意見を効率的に聞くことができると思います。

【阪口委員】

パブコメの意見がどう反映されているのか分かりにくいというご意見がありました。

私は公開されている情報を見に行くのが好きなのですが、計画に対して出された意見のうち、「単語を置き換えてほしい」のような文言修正レベルのものは反映されやすい一方、計画の根本に対する意見っていうのは中々反映されず、「貴重なご意見ありがとうございました」という、落としどころになってしまっている現状があります。

それが、パブコメへのハードルと、パブコメやって何の影響があるのか分からないという声に結びついているのかなと思いました。

パブコメに意見を出す人の中に、文言修正がしたい、という人は恐らくほとんどいなくて、もうちょっと大きい話について市民として意見を出したいという人が多いのではないかと思います。

このアンマッチがもったいない気がして、これを解消できるパブコメ以外の方法が、ワークショップなどの手法になるのではないのでしょうか。

行政分野の基本的な方向性を定める計画に関しては、積極的にワークショップを開催して、ワークショップ参加した人に対し、最終的にパブコメで意見をもらい、修正対応をするという形にすれば、市政に参加して、意見を出せたという手応えに繋がると思います。

【松平委員】

「静岡市子ども・子育て・若者プラン」では、児童相談所のケースワーカーと連携し、大人向けの文言を分かりやすく説明してもらい、小学生、中学生の意見を聞くこともできると思います。

親のニーズと子どものニーズは違いますし、当事者の意見を聞くことはとても

重要だと思えます。

【久保田委員】

消防署など、静岡市はいろいろな出前講座をやっています。夏休みには子どもたちも多く参加するので、そういう場で意見を吸い上げるのも一つの手段だと思います。

【天野委員】

計画策定についてパブコメを募集し、計画そのものに対する否定的な意見が多く出た場合、計画が見直されることが前提となっているのか確認させて下さい。

担当課によっては、反対意見が多いけれども、そのまま通してしまうということが制度上あり得るのでしょうか。

【市民自治推進課】

パブコメの意見結果如何によって、計画の策定等を止めなければならないといったルールはございません。いただいたご意見を踏まえて、各課において対応しております。

場合によっては、いただいた意見に対する市の考え方を説明した上で、修正せず進めさせていただく場合もある可能性がございます。

【天野委員】

反対意見が多い中でそのまま進めるところはないと思いますが、基本的には担当課において判断するというルールになっているということですね。

【市民自治推進課】

そうですね。各課で検討し、市として判断しています。

【小泉会長】

実施時期の関係で、パブリックコメント制度は元々、計画の骨子の段階とか、早めの段階で意見を聞いて計画を策定するという趣旨で導入された制度ではあるんですが、実態としては、そうっていないケースが多いです。

計画が概ねできた段階ではなく、まずは骨子の段階で出しましょうということからすると、静岡市の第4次総合計画で素晴らしい点は、その基本構想の段階で1回意見を聞いて、その上で2回目をやられたことです。

パブコメはいろいろある市民参画の手法のうちの一つですが、条例で定められているのは、市民参画の最低ラインは確保しましょうということですね。重要なことはパブコメにかけましょう、その上で各部署がどれだけプラスでやるかということだと思います。

パブコメが持っている機能としては、“こんなことが実は始まっている”とい

うことを知ってもらう機能が重要です。令和4年度の清水庁舎の関係では、市の進め方・考え方に疑問を持つ方々の運動のきっかけとなり、議論が行われました。

基本計画には反映できない実施レベルの意見については、次の実施段階になったときにアクションのきっかけになるので、基本計画の段階でとにかく1回出すという最低ラインが重要だと思います。

また、条例に基づく市民参画手続きだけでなく、日常的な業務でのやりとりの中で市民や関係者の方々とコミュニケーションをとって、情報やニーズを把握するというのがベースだと思いますので、日ごろから意識して取り組んでいただきたいと思います。

(2) 報告 静岡市 社会の大きな力と知を活かした根拠と共感に基づく市政変革研究会について

【企画課】

～ 資料2に基づき、静岡市 社会の大きな力と知を活かした根拠と共感に基づく市政変革研究会について説明 ～

【小泉会長】

ありがとうございました。今ご説明いただいたことについて、何かご質問やご意見等あればお願いします。

【松平委員】

先程ウェルビーイングの話がありましたが、これについても、大人のウェルビーイングと子どものウェルビーイングの指標が異なるということが国際的に証明されています。

大人の場合は、社会的地位であるとか経済力がウェルビーイングに直結しているのに対して、子どもの場合は、自己決定できる範疇であるとか、自分に人気があるとかないとか、友達との関係性になっていきます。是非、このような観点も取り入れて、研究会・分科会で考えていってほしいと思います。

【田口委員】

分科会の取り組みはとてもいいものだと感じました。これについて、市民が参画できる可能性が現状あるのでしょうか。

【企画課】

分科会については、あくまでも職員が政策の研究をする過程で、先生のご助言を受けていくという進め方をしているものですから、特段その中に市民の方が入っていくということはありません。

一方で、政策を考えていくときに、先ほど委員の皆様からのご発言がありましたが、現場の当事者の意見を聞かなければならないというのはどの分野にも共通してあることですから、どこにヒアリングに行こうとか、どういう層にアンケートをとろうかといったところはきちんと押さえながら進めていくということをやっております。

“根拠と共感に基づく”と言っているものですから、こういう意見・ニーズがあるから、こういうことをやっていきますよと、しっかり説明できるような政策だけをやるという形で進めておりますので、そういう意味では、それぞれの分科会が、市民の方々の意見を取り入れております。

【沼田委員】

10の分科会というのは、おそらく難波市長がトップダウンで決めたものだと思うのですが、皆さんいろいろ議論している中で、こんな分科会が欲しい、あんな分科会が欲しいという思いがあるのでしょうか。今の時点で決定しているものでなくて、意見としてあるんですかっていうところを教えてほしいなと思います。

【企画課】

人口減少対策のような少し幅広いテーマにはなるんですけども、人口が70万人を割って減り続けている、減少率も県全体の数字や、同じ政令指定都市の浜松の数字と比べてもかなり悪いということが、市としての喫緊の課題になっています。

このことについて、分科会の中で議論していくべきではないかっていう話をしており、来年度に向けた準備を今進めているところです。

【沼田委員】

“観光”というカテゴリーについて、皆さんどう考えてらっしゃるのか、すごく心配なんです。ご存知の通りというか、報道もされておりますけれども、大河ドラマに関係する3つの都市がありますが、本市は一人負けですよ。

いろんな要因があるのがよく分かりますが、これから人口がどんどん減っていくことが避けられない中で、観光でどう稼ぐかっていうところを真剣に考えていくっていうのが、僕は絶対に必要だと思っています。

残念ながら、10の分科会の中に観光を取り扱うものはありませんが、今後どうしていくのか、気になる場所があります。

もう一点、この研究会はどのようなスケジュールで結論を出していくのでしょうか。

【企画課】

少し説明不足だった点がございまして、この市政研究会で10のテーマを決めて、関係課が集まって取り組んでおりますけれども、これ以外にも各個別の分野

で個別のプロジェクトチームですとか、別の研究会を立ち上げているものもいくつかございます。

お話があった観光については、観光局が中心となって観光の研究会を立ち上げ、中心市街地の活性化や、インバウンドをどう取り込んでいくかといったテーマを議論しています。

スケジュールについてですが、この研究会は終わりを特に定めておらず、年間3回程程度の全体会議をやりながら、通年で分科会を動かすという運営をしています。

基本的には当初予算での予算化を目指して取り組んでいますが、すぐやるべき事業があれば、補正予算に計上するといったことも視野に入れながら、やるべきことはすぐに予算化してやっていくという動きをしています。そのため、年度で区切らず、継続的にやっている、ということです。

【小泉会長】

『根拠と共感に基づく市政変革研究会』という市長の想いを入れている名前が、非常にわかりやすいと思います。

有識者の研究会でもなければ審議会でもない、研究するのは職員だという主語がはっきりしていて、政策が変わる前に組織が変わらないと動かない、この研究会は市の組織改革の手段であると感じました。

研究会をやることによってそれぞれの組織で発想や考え方が変わって、そこで練られたものが予算化していく。

あくまで私見ですが、この研究会のテーマは、まずはどんなテーマでもよいと思います。

職員自らが研究して政策を考えるという、行政の進め方のOJTがこの研究会で実践されれば、これがモデルになって、どんどん市内に広がっていき、観光など様々な分野で自ずと研究と実践が行なわれていくのだと思います。

新たな発想を取り入れる一つのきっかけになると感じました。

ここでお時間となりました。以上で予定されていた議題等は終了となります。ありがとうございました。

署名 静岡市市民自治推進審議会

会長 小泉 祐一 印